

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2006 年度～2008 年度
 課題番号：18530416
 研究課題名 (和文) 在日日系ブラジル人二世世代のエスニック・アイデンティティ及び日本社会への適応
 研究課題名 (英文) The Ethnic Identity of Second Generation Japanese-Brazilians Living in Japan and Their Adaptation into Japanese Society
 研究代表者
 イシカワ エウニセアケミ (ISHIKAWA EUNICE AKEMI)
 静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授
 研究者番号：60331170

研究成果の概要：

多くのブラジル人は、1990 年当初、一時的な滞在目的で来日しているとはいえ、ほとんどが日本滞在を延長している状態である。一時滞在という人の意識と滞在長期化という実態の間にみられるギャップは、在日ブラジル人の子どもたちが抱える問題を悪化させているといえる。日本での生活の中で、彼・彼女らは学校と家庭の間で、日本とブラジルの習慣・言語・文化の狭間で生きており、今後日本社会で生活していく上で悩む者が増加している。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,000,000	0	1,000,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	480,000	3,080,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：国際社会・エスニシティ

キーワード：在日ブラジル人、二世世代、エスニック・アイデンティティ、外国人の子どもの教育

1. 研究開始当初の背景

90 年代にブラジルから日本へ日系人が来るようになってからほぼ 20 年が経っており、当初の大人の労働や住宅の問題から、日本での長期滞在に伴い、家族形成と子どもの教育の問題が顕著になってきていた。

2. 研究の目的

現在、ブラジル人の子どもが日本の社会で生活する場合、必要最低限の日本語能力を習得することすら困難な状況である。このような現状の中、日系ブラジル人の子どもは、どのような自己アイデンティティを築いている

のか、またどのように日本社会に適応していくのが問題となってくる。また、彼らには家庭におけるブラジル文化の維持という現状もある。つまり、ブラジルから来た親たちは家では主にポルトガル語を話し、ブラジルの習慣を維持しているケースが多い。ここで、日本の社会とブラジル人家庭の狭間におかれている子どもたちがどのようにこれらの問題に直面しているかという疑問が生じる。本研究では彼らの「ブラジル人」または「日系人」、そして「日本人」としてのアイデンティティの形成過程を本人の主観的な側面に焦点を当て、分析をしている。

3. 研究の方法

本研究では、在日ブラジル人の子どもと若者への直接面接行い、日本での生活（家庭、地域）や学校での生活について聞き取りを行った。また、ブラジルにおけるエスニック学校と日本における公立学校及びブラジル人学校の比較研究を出発点として、学校と社会の関係の分析を行い、両国の子どもたちの比較を試みた。調査方法は直接面接法にて、子どもたちの主観的な側面に注目した。

4. 研究成果

現在日本において、ブラジル人コミュニティが形成されており、家庭内ではポルトガル語を話し、ブラジルの習慣を維持しようとする親たちと、日本語を流暢に話し、日本の教育を受けている子どもたちとの間に意識のズレが生じている。

本研究で、幼児期から日本で暮らしているブラジル人の子どもは、自分たちは日本人であり、これからも日本でずっと生活をするであろうと考えているケースが増えている。ブラジルは、あくまでも親の国であり、自分の「祖国」である事は否定しないが、自分たちは日本人として生活を希望しているといえる。国籍に関しては、ブラジル国籍を所有している子どもがほとんどであるが、主に幼児期から来日している人たちは帰化を考え始めている。また、帰化の目的は、日本人になろうという主観的な意識より、日本での就職や今後の生活を考えたときに何かと有利になるからだと言う意見の方が多かった。

一方、中学校の高学年から来日している人は、帰化を希望している場合でも、自分たちはブラジル人であることに重点をおいてい

る。彼・彼女らは、日本社会に適応する努力をしており、日本人からの差別的な扱いをされないよう常に意識している。また、ブラジルへ帰国することは考えておらず、日本での永住を前提に日本の大学進学を希望する若者が徐々に現れている。ブラジルへは遊びに行きたいが、住むのは日本の方が良いと語る者が多い。つまり、ブラジルの日本移民家庭で育った日系人たちの歴史が、今度は日本においてブラジル人家庭で繰り返されているといえよう。

つまり、多くのブラジル人の子どもは日常的に日本語を使い、日本の学校に通いながら日本人の子どもと変わらない経験をしていく可能性がうかがえた。子どもたちは日本社会への適応過程において、今度は日本人としてのアイデンティティが芽生えてくると考えられる。

また、在日ブラジル人学校に通う子どもたちの現状は、いずれはブラジルへ帰国する目的として教育であるため、この子どもたちが日本に永住し、日本の大学への進学や就職をする場合、ポルトガル語でブラジルの教育のみを受けていれば、困難が多いことが予想される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

① イシカワ エウニセ アケミ 「在日日系ブラジル人ヘルパー —経済不況により工場から介護労働へ—」国際移動とジェンダー研究会編『アジアにおける再選産領域のグローバル化とジェンダー再配置』科研費報告書、代表伊藤るり、査読無し、2009年3月、pp. 175-186。

② イシカワ エウニセ アケミ 「在日ブラジル人コミュニティにおけるブラジル人学校の役割 —ブラジルにおけるエスニック学校との比較研究—」『外国人児童・生徒の教育施設と自治体間格差の比較研究』代表佐久間孝正、査読無し、2009年3月、pp. 71-84。

③ イシカワ エウニセ アケミ ”Brasileiros no Japão: de temporários à permanentes” (在日ブラジル人—短期滞在者から永住者へ—)、『静岡県外国人労働実態調査の詳細分析報告書』池上重弘／イシカワ・エウニセ・アケミ（編）静岡文化芸術大学、査読無し、2009年3月、pp. 74-85。

④ イシカワ エウニセ アケミ “Identidade Étnica dos Nikkeis Brasileiros no Japão- O

ambiente em que vivem as crianças brasileiras em Hamamatsu-” (「在日日系ブラジル人のエスニック・アイデンティティー浜松における日系人子弟の生活環境」)代表池上重弘)『外国人市民と地域社会への参加ー2006年浜松市外国人調査の詳細分析ー』平成19年度静岡文化芸術大学文化政策学部長特別研究、成果報告書、査読無し、2008年3月、pp. 90-102。

⑤イシカワ エウニセ アケミ「日本の記憶」と「ブラジルの記憶」ー日系ブラジル人のアイデンティティ『クアドランテ「四分儀」地域・文化・位置のための総合雑誌』N.10、東京外国語大学海外事情研究所、査読無し、2008年3月、pp.177-186。

⑥イシカワ エウニセ アケミ「日本における日系ブラジル人女性ー国際移動に伴う変容」『アジア遊学』117、査読無し、勉誠出版、pp.47-53、2008年12月20日発行。

⑦イシカワ エウニセ アケミ「進学を果たした日系ブラジル人の若者の学校経験」『外国人児童・生徒の就学問題の家族的背景と就学支援ネットワークの研究』科研費成果報告書、代表宮島喬、査読無し、2007年3月、pp. 75-87。

[学会発表] (計6件)

①イシカワ エウニセ アケミ
“Returning Japanese-Brazilian Second-Generations: Their Experiences in Japan”(日系ブラジル人第二世代：日本における経験) 2009 Annual Meeting - Association of American Geographers (AAG), Hotel Riviera, Las Vegas, USA, March 22 - 27, 2009 (2009年 アメリカ地理学学会、ラスベガス (アメリカ))。

②イシカワ エウニセ アケミ
“Japanese-Brazilians in Japan: The Second Generation’s Identity” (在日日系ブラジル人：第二世代のアイデンティティ) First ISA Forum of Sociology, University of Barcelona, Spain, September 5 - 8, 2008 第1回社会学フォーラム (ISA)。

③イシカワ エウニセ アケミ
“The Japanese Brazilian Identity”
日系ブラジル人のアイデンティティ
38th World Congress of the International Institute of Sociology, Central European

University, Budapest, Hungary. June 26-30, 2008.第38回 (IIS) 国際社会学機構大会、2008年6月26日~30日(発表 6月29日)。

④イシカワ エウニセ アケミ
“The Japanese-Brazilian Children’s Education in Japan”日本におけるブラジル人の子どもの教育。38th World Congress of the International Institute of Sociology, Central European University, Budapest, Hungary. June 26-30, 2008. 第38回 (IIS) 国際社会学機構大会、2008年6月26日~30日(発表 6月29日)。

⑤イシカワ エウニセ アケミ
“Japanese-Brazilian Children’s Education and Their Identity: A Case Study in Hamamatsu City”日系ブラジル人の子どもの教育とアイデンティティー浜松市の事例 The 20th Asian Studies Conference Japan (ASCJ), Rikkyo University, Tokyo, Japan, June 21-22, 2008 (発表 6月21日)。

⑥イシカワ エウニセ アケミ
“Cultural and Language Barriers inside the Families - The case of Japanese-Brazilian Families in Japan “ (「在日日系ブラジル人家族内における言語・文化の壁」) XVI ISA World Congress of Sociology (第16回国際社会学会 (ISA) 大会) July 23rd to 29th, 2006, in Durban, South Africa.

[図書] (計2件)

①イシカワ エウニセ アケミ「日本の記憶」と「ブラジルの記憶」ー日系ブラジル人のアイデンティティ」編者：鶴本花織・西山哲郎・松宮朝『トヨティズムを生きる』せりか書房、2008年9月、pp73-82。総頁197。

②イシカワ エウニセ アケミ 日本図書センター「家族は子供の教育にどうかかわるか」編著：広田照幸『子育て・しつけ』、2006年、pp. 290-303、総頁374。

〔その他〕
報告書

① イシカワ エウニセ アケミ(共著)
Debate em Português – A vida dos Brasileiros em Hamamatsu(『ポルトガル語でのディベート – 浜松市におけるブラジル人の生活』イシカワ・エウニセ・アケミ／池上重弘(編)、静岡文化芸術大学、2009年3月、総頁90。

② イシカワ エウニセ アケミ(共著)『静岡県外国人労働実態調査(外国人調査)報告書』静岡県 県民部多文化共生室、2008年3月。総頁93。

③ イシカワ エウニセ アケミ(共著)『静岡県外国人労働実態調査(企業調査)報告書』(共著)静岡県 県民部多文化共生室、2008年3月。総頁85。

④ イシカワ エウニセ アケミ(共著)『浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査』池上重弘(編者)編集・発行：浜松市企画部国際課、2007年1月9日発行、総頁79。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

イシカワ エウニセ アケミ (Ishikawa Eunice Akemi)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授
研究者番号：60331170

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者